



表紙
小林英樹 《a painted statue》1996

表紙絵の解説

小林英樹

1996年、札幌芸術の森美術館の企画展に誘ってもらったときに出した一点。「顔料の持つ二つの属性」ということにテーマを絞り、物質の違いを突き合わせて見せる方法をとった。この作品は厚手のシナベニアに薄い麻布を張り、そこに膠を塗って、その上から卵とアクリルのマットメディウムを混ぜた溶剤で溶いた顔料を塗った。画面中央に記憶で石膏像をコンテでざっと描き、その周囲にスパゲッティを折ったものを貼りつけ、卵黄テンペラで色付けしていった。白のアクリル、ウレタン、シリコンの合成樹脂塗料で石膏像と周辺を覆い隠し、乾燥後、右下隅に天然樹脂を流して2、3ヵ月放置して乾燥を待った。軽い気持ちでサブタイトルを《葡萄に手の届かないディオニソス》とつけた。この絵を選んだのは、2013年年末、シチリアのシラクーザに滞在中、ふと、頭に浮かんだからだ。水色の上にスパゲッティを並べているとき、何となく地中海の上にスパゲッティを置いている気分になったことを思い出した。